



かわばた よしえ 議員
河端 芳恵

サイレンが鳴るような災害が起きないで!!

問 サイレン吹鳴と消防体制に問題は

町長 空白地帯はないと認識

サイレン聞こえない 空白地帯は

問 消防庁舎が移転したが、サイレンが小さくて聞こえないという声があちこちで出ている。サイレンの空白地帯はないか。

町長 胆振東部地震のブラックアウトでモーターサイレンが使用できなくなった反省から新消防庁舎には電子サイレンを採用した。

末広町、若富町、穂波にある既存の子局モーターサイレンと新消防庁舎の電子サイレンで市街地全域をカバーしているのほぼ空白地帯はないと認識。

非常時の団員招集は

問 非常時の団員招集はメールで行っているようだがそれで十分か。

町長 平成20年の通信指令体制の一元化により、消防団員の招集はサイレンからメールに変わった。メールは、いつでも、どこでも受信できるので不便はないと聞いている。

問 昨年12月緑丘での火災時、消防自動車はサイレンが鳴ってすぐ出動したが、2台目は団員の集まりが遅くて出動に時間がかかっていた。これは団員がメールの着信に気付かなかったからでは。

町長 出動には支障がな

かったと聞いている。

問 昨年10月総合防災訓練が東町、元町、旭町の住民を対象に行われ、サイレンを合図に避難することになっていないか、サイレンが聞こえなかったとの声もあったが対策は。

町長 サイレンの音が小さいとの声は届いているが、特に不備があったとの報告は受けていない。

問 大火、洪水などの避難時にはサイレンを吹鳴するとあるが、今のサイレンで対応できるのか。

町長 避難指示が発令された場合は、サイレン吹鳴、広報車、災害メール、SNS、テレビ

などあらゆる手段を同時に実施するので、現体制で対応できると考えている。

問

地域おこし協力隊
今後の考えは

町長 新たな執行体制で
検討される

問 今年度、待望の地域おこし協力隊が着任したが、残念ながら年度途中で退任された。

定住対策の任務で1人導入した。

問 来年度以降、協力隊の導入をどのように考えているか。

町長 新たな執行体制で検討されることになると思う。

町長 募集にあたり、各課に協力隊の役割などを説明し協力隊の導入について聞き取りをした。

活動の幅を広げるため他課の事業にも参加させるなどして合意認識の醸成はできていた。
問 他町では複数の隊員を雇用している町も多いようだ、1人はハイドルが高く厳しかったのでは。

町長 本町では初の試みであり、まずは外からの視点を生かせる移住



消防庁舎のサイレン



訓子府の良さを再発見



河端議員の一般質問を視聴できます